

## 平成 30 年 1 月月例記者会見

### 会見記録

#### 1. 記者会見

##### 【 説明 】

##### 〔生駒市子ども・若者総合相談窓口『ユースネットいこま』を開設します〕

**市長** 1 点目が「ユースネットいこま」。ひきこもりとか不登校、ニート、こういう事例が、かなり今、生駒市でも全国的にも課題になっています。特に、ひきこもり、ニートという問題は、学校を出たあと、なかなかその実態が把握しきれないところから、非常に大きな課題で、潜在的に表面的に見えないというところがあって、大変対応が難しい課題です。また、ひきこもりの背景にある原因も、経済的な理由であったりとか、発達障害の問題があったりとか、家庭内のいろんな人間関係があったりとか、様々な背景がございますので、今回、奈良県内を中心にいろんな関係団体とネットワークを組みまして、不登校、ニート、ひきこもりの後ろにある背景からどういうふうに対応していくのかといった、総合的な相談窓口「ユースネットいこま」を開設いたします。

1 月 26 日から生駒駅の北口にあります教育支援施設の中に窓口を開設いたします。また、1 月 25 日(木)午前 10 時から現地で相談窓口の内覧会を行います。窓口事務を受けていただきます株式会社やまとさんからこちらの窓口の簡単な説明をいたしますので、ぜひ、内覧会をご取材いただければと思います。

この窓口の特徴としては、大きく 4 つございます。総合窓口と銘打ったところは各自自治体にありますが、それは単なる担当課の窓口であったり、そこで話を聞いておしまいという事結構あります。しかし、生駒市のこの「ユースネットいこま」は、まず 1 つ目に、土日も含めて休日もきちんと対応が出来るということがポイントです。

2 点目が、単にこちらに来てもらうのを待つだけではなくて、問題事例に対して、必要であれば実際に各ご家庭に訪問して、アウトリーチもきちんとしていくということでございます。

3 点目は、子ども・若者育成支援推進法では 39 歳までを不登校、ニート、ひきこもりの法の対象としていますが、実際は 40 歳以上の方もたくさんこういう問題を抱えておられますので、40 歳以上の方も生駒市では対応していくということ。

4 点目が、これが担当課が非常に頑張ってくれたところですが、不登校、ニート、ひきこもりには、非常に多岐にわたる課題があります。こういう家庭でこういう子が今困ってるというような情報も含めて、我々にたくさんの情報をいただくとか、また、情報をいただいた時に背景にどういう事があって、どういう所の専門機関にお願いをすればそれが解決できるのかというような、実際の相談を解決するプロセスとか問題を把握するプロセスも、非常にきめ細やかに相談窓口で対応するとともに、37 団体のネットワークがあるという所がぜひ特筆すべきことかなと思っております。

何卒、25 日の内覧会をご取材いただければありがたいというふうに思っております。

業務委託は、株式会社やまとで、厚生労働省の委託事業なんかも受けておられるところがございます。

生駒市でもこれまでに出張相談などの実績があります。やまと自身も相談窓口ということで広く対応いたしますし、生駒市が有しております他の相談の体制とかネットワーク、もちろん職員もそうですけど、有機的につながってより適切な対応をより広く取っていきたいということでございます。

1 つめは以上です。

### 【奈良県内初！障がい者のための地域生活支援拠点事業をスタートしました】

**市長** ふたつめが、障がい者のための地域生活支援拠点事業でございます。これを生駒市は奈良県では初めて行いますというお知らせでございます。

この地域生活支援拠点事業は、国の第4期障害福祉計画の基本指針で各市町村に1ヶ所を整備していただきとなっております。生駒市においても、どのような拠点を整備していくのかと議論を重ねてきた結果、新旭ヶ丘に社会福祉法人いこま福祉会さんが運営しておられるグループホームがあるのですが、そこの一角を地域生活支援拠点事業所とし、そういった機能を持たせていくということでございます。

国がやってるこの地域生活支援拠点事業というのが大きく5つの機能に分かれてまして、「相談」「緊急時の受け入れ」「体験の機会・場」「専門的人材の確保・養成」「地域の体制作り」と5つございますけれども、この内、まずどれか出来るところから1つでもスタートすれば拠点事業として認められるということなので、生駒市ではまず「緊急時の受け入れ・対応」と「体験の機会・場」の提供という、この2つの事業をまずは先行してスタートをさせ、続いていろんな相談を行える拠点を作っていききたいということで考えております。このような形の拠点事業をスタートするのは、県内で初めてということでございます。

### 【連合奈良の会長が生駒市に訪 icoマドを視察、働き方改革について意見交換】

**市長** 3 つめが、連合奈良の西田会長が生駒市に来られるということでございます。西田会長は昨年11月に連合奈良の新しい会長として就任をされまして、女性の会長ということでございます。西田さんが就任される直前に九州のどこかの県で確か女性の会長が選ばれたらしくて、全国で現在2人しかいらっしゃらないその内の1人の女性の会長さんです。元々、市町村の組合をされてる方とお聞きをしておりますが、女性の会長になられたということで就任の時にも女性の活躍支援でありますとか、働き方改革というような話、あと、ご自身が自治体の出身ということもございまして、自治体の働き方改革とか、そういうところにも非常にご関心があるということでお話、挨拶をされたので、生駒市の働き方改革とか副業促進、地域に飛び出すような職員の在り方、あとはイクボス宣言もして全国第4位の市町村ということで評価もいただいているようなこととか、icoマドを中心とした色々な新しい働き方の多様性を確保するような取り組みとか、そのような話をしたら非常に関心を持っていただきましたので、この度、1月19日（金）に生駒市へお越しをいただくということになりました。

具体的には生駒市の人事課を中心に、私も出席しますが、生駒市の様々な残業削減の取組みと実績でありますとか、イクボスの話、働き方改革、副業促進と、そういうような話を申し上げて質疑応答としたり、場所はicoマドの方になると思いますけどもicoマドの管理をお願いしてます株式会社ワイズスタッフの田澤さんからテレワークの話でありますとか、多様な働き方の話でありますとか、そういうような事をやろうというふうに思っております。

都合が合えば、今実際icoマドで色々な起業促進のための取組みプログラムをやっていますので、そう

いう所に参加していただいている起業家の卵とか、そういうものに関心がある特に女性の方にも来てもらって、意見交換をしてもらえればより良いのかなと思ってます。そういうような形で女性の活躍促進と働き方改革、特に生駒市における取り組みというようなものを意見交換させていただいて、また連合との協力でありますとか、連合の取り組みにもそういうようなものを反映させていただくような事を考えております。

### 【第3回ビブリオバトル全国大会 in いこま】

**市長** 最後になります「第3回目のビブリオバトル全国大会 in いこま」を本年度も開催をいたします。全国大会は3回目になりますけれども、今年のポイントは大きく2つです。1つは前夜祭というのをやるということでありまして。ビブリオバトルの創始者が立命館大学の谷口先生です。「たにちゅー先生」と呼ばれてますけど、全国大会する時に当時は私も副市長でしたが、立命館大学の琵琶湖・草津キャンパスで谷口先生と2時間くらい話し込んだ事を思い出します。機械とかITとかそういうところがご専門の先生なのですが、ビブリオバトルの創始者である彼が、そもそもビブリオバトルとはどういうものかとか、昔の話とか、そんな話をさせていただく前夜祭があります。

もう1つは、今回は辻村深月さんに来ていただきます。直木賞作家の辻村深月さんです。前回かその前だったか、実際のビブリオバトルの全国大会でも取り上げられたことのある非常に人気のある作家さんです。今年は辻村深月さんに来ていただいて、トークイベントが当日4日（日）にございます。

全国各地で年末から年始にかけていろんな会場で予選会が行われて、そこでのチャンプが生駒に集結をするということでございますので、今年も非常に面白い取り組みになるかなと、面白い戦いになるかなと思っておりますので、ぜひ、ご取材の方をお願いしたいと思います。

先月、行いました中学生ビブリオ大会も、本当にびっくりするぐらいの発表をしますし、本当に準備も各学校で、図書室の司書も生駒市は置いておりますけれども、その司書を中心にすごく準備をして本当にびっくりするぐらいのレベルのプレゼンをしています。そちらの方もまた来年もやる予定なので、またご取材いただければと思うのですが、地域の学校での教育、図書館教育というようなものでしっかり地に足のついた取り組みをしながら、全国大会というような形でビブリオバトルも3種類やっています。毎月、図書館でやってるビブリオバトル、学校と連携をした中学生大会、そして全国の色々な方とつながる全国大会の3本柱でやってますので、また是非この全国大会の方もご取材いただければありがたいなと思っております。

私からは、以上でございます。

### 【質疑応答】

#### 【生駒市子ども・若者総合相談窓口『ユースネットいこま』を開設します】

**記者** 「ユースネットいこま」なんですけど、これはイメージとしては、不登校、ニート、ひきこもりといった方々の総合的な一元的な相談窓口を用意します、ということでしょうか。

**市長** 基本的にはそうです。

**記者** 教育、福祉、就労、子育て、何でもOKというような、総合的な窓口を作りますと。

**市長** はい。

**記者** 奈良県内初で、全国的にも珍しい、こういう窓口は。

**市担当者**　そうですね。元々、ニート、ひきこもりに特化した窓口というのはなかなかないのかなと思うんですけども、その拠点を整備したということが1点発信できるところかなとは思っております。それに加えて、県内でももちろんそういった対応なさっている市はございますけれども、常設ということではなくて、週に何回の開設であったりとか。特に土曜日、日曜日も開設というところは本市の売りになるかなというふうには思っております。

**市長**　常設でやるというのは県内初めてということですよ。常設で、土日も含めてやるのはもちろん県内初。さっき申し上げたように、本窓口の特徴が1~4までありますけど、相談窓口ということで月に1回どこかで窓口置いてとかいうのはあるのだと思いますが。常設で場所決めてここというふうにするのも初めてということで良いと思いますし、平日までの対応が多い中で、土曜日でも日曜日もしっかりと対応しますということやってる窓口は、ましてや県の中ではないと。あと、2番目、3番目、4番目の訪問支援もするとか、39歳までではなくて40歳以上の方にも対応するとかいうようなこと、後は関係機関が非常に多岐に渡る中でのネットワークを相談窓口を後ろにおいてるという、この4つが非常に大きな特徴だと思ってまして、1番目のところだけでも県内初だと思いますが、この1から4まで全て機能を備えてるものという意味でいうと、全国でもかなり珍しいと思います。生駒市しかないとは言えないみたいですが、全国的にも多分市町村のレベルでここまでやってるところというのはほとんど無いと言っているのではないかと。全国的にも先進的な取り組みだということですよ。　　そういうことで書いていただいて全く問題ないかと思えます。

**記者**　お聞きしていると、このような先進的な取り組みを、ここまで市がやるのかっていうような気もするぐらいのものだと思うんですけども、市長に伺いたいのですが、どうして、ここまで力を入れてやってらっしゃるのでしょうか。

**市長**　担当職員の熱意も大きな理由ですけども、さっき申し上げたように、例えば児童虐待のような学校である程度捕捉出来るような問題もあるんですが、不登校、ニート、ひきこもりというのは今非常に問題として捕捉しにくいのです。どこの家庭にそういう方がいらっしゃるかというが、例えば学校に来てないのでそういうところから情報から取れないですし、自治会とかである程度わかる話もあるのかもしれませんが、まず捕捉をすること自体が非常に難しいけれども、いろいろ聞いてるとそういうご家庭って、今、全国推計とか生駒市の実態とか見ても多分、全国で54万人で、そこから逆算しても、生駒市でも推計600人前後の方がいらっしゃるということです。そうすると生駒市でも、例えば自治会の中にそういうことで困ってる方というのは確実に何世帯かあるということだと思いますので、やっぱり、隠れてる課題なんですけども、しっかりとそこに光を当てたいというような思いは私も元々ありました。それを思ってた中で、具体的にただ非常に背景が多岐に渡るので、経済的な問題もあれば、家族の中の親と子どもの関係というのもあったりとか、発達障がいも隠れてる事もあったりとか、本当に色々なものがあるので結局この窓口をつくるというとほとんど市役所全体のネットワークがいるとか、窓口自体のあり方というのをどうすればいいのかという議論も含めて相当担当課とも議論してきたところではあります。今回、逆に言えば40歳までの人っていうふうに変に線を引くのではなくて、もう少し対象を広くして、相談窓口に来た方に背景がいろいろある中でも対応していきけるようなネットワークもきちんと担当で整備してもらったので、窓口というのを総合的に設けていくことになりました。全国的にもすごく大きな問題としてこれから出てくるところだと思いますし、こういうところに対応することが他の発達障がい支援みたいなことにもつながると思いますし、家庭の中の崩壊みたいなものを防ぐということ

にもつながっていくと思いますし、滞納されて生活保護を受けての方が仕事を得てまた仕事をしていくという、そういうところにもつながっていくと思います。ここを切り口に、単に子ども・若者をというだけじゃなくて、体制もすごく総合的なのですけども、効果の方も色々な総合的な成果が出ていくのではないかというふうに思っています。

相談できる所というのが、特に若者ご自身もそうですが、保護者の方とかが高齢になって、親亡き後という話がよくありますけど、そういう時にどうするかというような。障がいの方も障がい者福祉の時もそういう話が出ますけど、このニート、ひきこもりの方も同じ課題がこれから出てくると思います。高齢化の進む生駒市も、先進的に本当に県レベルするような取り組みに近いことをやります。かなり予算も掛かりますし、人的なパワーもいるのですが、ここがそれだけの効果をあげていくのであれば、先駆的にちょっと踏ん張って頑張ろうかと、そういう主旨であります。

**記者** 600人という数字は何の数字ですか。

**市担当者** ひきこもりの推計といえますか、なかなかそういった調査というのが出来ませんが、全国で内閣府の調査によりますと54万人という数字が出てまして。

**記者** 全国推計と生駒市の人口で逆算して600人ぐらいだろうと。

**市担当者** 人口割で算出しますと600人ぐらいではないかと。

**市長** 大体生駒市で全国の1000分の1の人口なので。

**記者** 生駒市内のひきこもりの推計値が600人ですね。

**市担当者** そうですね。

**記者** 教育支援施設の名称は「生駒市教育支援施設」で良いのですか？

**市担当者** 生駒市が入ってなくて「教育支援施設」というのが。

**記者** 市の施設ですか。

**市担当者** 市の施設です。

**記者** 問い合わせの電話番号は教育支援施設の電話番号。

**市担当者** ここのリーフレットにいらてますのは「ユースネットいこま」につながる電話番号です。

**記者** これは、いつから使えますか？

**市担当者** これはオープンの26日から開通になります。

**記者** 今の時点での問い合わせは。

**市担当者** 生涯学習課にいただければと思います。

**記者** 600人というのは、そこまで多いのかどうか分かりませんが、生駒市ではこういった不登校、ニート、ひきこもりといった問題が潜在化しているのでしょうか。

**市担当者** 実は、現在は週1回ですけども若者の無料相談というものをコミュニティセンターでさせていただいております。こういったもので「若者サポートステーション」という厚生労働省の委託を受けた事業所さんがやっていたらと、市は場所の提供ということだけをしているのですが、こういったものを自治会の掲示板に貼ってもらったところ、かなり相談件数が増えまして、潜在化しているというものが少しでもつながっていけばというような事はすごく思うところです。

**市長** 数字で言いますと、27年度からスタートしているのですが、27年度は相談件数が127件です。28年度は倍近くで228件になって、今年も年度途中で29年度は168件で去年並みぐらいだと思うのです。600人というのも最小限で他にもいらっしゃるのだと思いますけど。実際、相談件数がこれだけあるとい

うことは、もちろん同じ方が2回とか3回来られる方があるので、人数としては去年の228件でいうと大体54人というふうに聞いてますので、同じ方が平均すると4回ぐらい相談に来てるということになるのですが、この数字を私も見ても相談したいとか何とかしてほしいという方が相当いらっしゃるというのは思いました。

**記者** これで、結構たくさん相談が来ているから、潜在的にこういう問題があるだろうということで、今回に。

**市長** そうです。

**記者** ③の40歳以上の方も対応とありますけど、これも子ども・若者育成支援推進法というのは国の法律で、39歳までが対象ということは、39歳以上は実質、国としては支援しませんよというふうに言ってるようなものですよ、おそらく。それを生駒市はやりますよ、ということですよ？

**市担当者** そうですね。やはり、30代でずっと継続的に、なかなかこういった問題というのは即座に解決するものでもありませんので、かなり長期間にわたる相談になってきます。そういったことで、やはり40代の方も今、こちらの無料相談会についても基本39歳ぐらいまでとはなってるのですが、実際やはり40代になっても継続的に相談を受けていただいているという現状もございますし、そういったところで40歳までで切るのではなく受けるというスタンスで。

**記者** 高齢ニート、高齢ひきこもりの問題も切り込んでいくわけですね。

**市担当者** そうです。

**市長** バブルの時に就職して退職されたり、リストラになってるような方で40歳を越えてる方が、その40代後半にも当然たくさんいらっしゃるわけですよ。39歳という一つの線引きが国としているというのは、もちろん分かるのですが、実際その現場で地域でそういうひきこもりになられてるような方とかの実態から言うと、継続的に支援していくことが必要ということもあります。近々に対応が必要という現場のニーズを考えれば39歳で線を引く合理性は別に生駒市においては無いだろうということがございます。

**記者** 「若者サポートステーションやまと」は桜井ですね。

**市担当者** 本社は桜井です。

**記者** 窓口は。

**市担当者** 窓口は桜井にありますけども、出張相談として、県内あちこちで窓口を開設してる所もあります。

**記者** さっきの「若者サポートステーションやまと」の件数というのが、株式会社やまとさんの数字ですか。

**市担当者** やまとの数字です。

**記者** やまとの数字だから、生駒の数字ではないですよね？

**市長** 生駒会場でやった人数です。ただ、おっしゃるように生駒会場なんだけど、当然生駒市だけではないのです。生駒市外からも来る人がいるから、その内訳はお伝えします。

**記者** こういう若者の相談を受けてる事業所は株式会社やまとさん以外県内にはないのですか。

**市担当者** 県内で手広くやってるのは、株式会社やまとさんです。

**記者** 手広くというのは、拠点は桜井で各地へ出張してる。

**市担当者** はい。

**記者** やまとさんは何をするといいのですか。実際のスタッフはやまとさんのスタッフではないんですね。

**市担当者** このやまとさんに委託をするということになります。

**記者** やまとの職員ですか。

**市担当者** やまとのスタッフが相談に当たるということになります。

**記者** この相談員2名体制というのは、やまとのスタッフ。

**市担当者** そうです。

**記者** 常勤が1人と、非常勤のうちの3人が交代で来るということですよね。2人体制ということは。

**市担当者** 1人はずっと常勤で入られて、非常勤3人は、そうですね。

**記者** 常勤は1人で、プラス非常勤3人が交代で。

**市担当者** はい、そうです。

**記者** 週1・2回は帯同している所があるとおっしゃったのは、例えばどこですか。

**市担当者** 天理市の「ゆめ天理」というのが。

**記者** 奈良市はないのですか？

**市担当者** 奈良市はないです。1番に奈良県に出来たのが葛城市。天理市、香芝市、今回生駒市という形になりますけど、ここまでやらせていただくのは生駒市だけ。

**記者** 生駒市ではこれまでのこの手の相談は出張で、生駒会場でされてた、ということですね。

**市担当者** そうです。

**記者** 何となくユースというと、やっぱり若者のイメージがあって、法律で39歳というと39歳は若者かという違和感はないわけではないけど。実際は相談する層というのは、30代でもあるわけですか。

**市担当者** あります。

**記者** 多いのは、やっぱり若い人。

**市担当者** そうですね、20代の方とかがやっぱり。ニートについては20代ぐらいの方が多いですし。

**記者** 相談が39歳までが対象で家族を含むとなると、対象となる人は年齢制限があるけど家族に年齢制限はないですね。

**市担当者** それは、ないです。

**記者** 支援の対象になると、先程も出張相談で生駒市の会場でやっても生駒市外の方が来られることもあったのですが、この対象は生駒市在住の方ですか。

**市担当者** 生駒市在住、在学。高校もありますし、在勤とよく言われる条件は考えております。

**記者** 保護者が生駒市で働いてるといのは、対象になりますか。それは対象にならないですか。

**市担当者** 一旦はご相談があれば、お聞きさせていただくことにはなると思います。その中で、どういつなぎ先のご紹介をさせてもらったりとかいうことになるかなと思います。

**記者** 生駒市がやることだから、手広く全部まで見てたら、まず生駒市の対象者からやらないといけない話だから。

**市担当者** そうですね。

### 〔奈良県内初！障がい者のための地域生活支援拠点事業をスタートしました〕

**記者** 地域生活支援拠点事業の件ですが、これは障がい者の方が新規で暮らせるように支援する拠点

を作るお話なのですよ。

**市長** グループホーム自体は元々新旭ヶ丘にも他の所にもあるので、住む場所という意味ではグループホームとかもうすでに生駒市で整備したり、民間で整備されてるのを応援したりというのはあるのですけど、それに国が言ってる5つの機能みたいなものを合わせ持った機能を、そのグループホームの所でも良いし拠点として作っていただきますということなので、その5つのうち2つをとりあえず今回県内で初めてですけどスタートしましょうと、そういうことです。

**記者** 緊急時の受け入れ対応というところと、体験の機会の2つあるということですよ。

**市長** はい。

**記者** 緊急時の受け入れ対応というのは、要するに誰か緊急的な理由で、どこか居られなくなった方を一定時お預かりしますよという話ですか。

**市担当者** 警察で保護されてる方であったりだとか、通常、緊急時の受け入れというのは障がい福祉サービスの中で1つショートステイの短期入所というサービスがちゃんとあるのですけども、どうしても受け入れ場所も非常に少なかったりとか、再緊急とか今救急車で運ばれた親がみたいな状態とか、そういった時でも対応できるような場所というのを1つ持つておかないとということで、居室の確保とか部屋をまず確保して、それに対する障がい特性に応じた支援ができるような体制を作ったということです。だから、状态的にこの緊急受け入れというのがいつもいつも稼動するようなことでは本来なら困るのですが。でも、やっぱりないと安心というところに関してはダメなので、こういうような機能を持たせるという形になってます。

**記者** 「ラベンダー」というのは市の施設ですか。

**市担当者** いいえ、これは社会福祉法人が建てた多機能型のグループホームです。

**記者** 「ラベンダー」などとなっていますけど、基本ラベンダーに受け入れるという理解で良いですよ？この緊急もグループホーム体験も。

**市担当者** 1番下の一人暮らし体験だけが「cocua」と読みますけど、これはメイン的に借りた法人がお借りになっているマンションなのですが、そちらで一人暮らしの体験もやっていただくメニューも増えてますよ、ということです。緊急時の受け入れにつきましては、先程申し上げました「ラベンダー」の方でやっております。

**記者** 緊急もグループホーム関係も「ラベンダー」。

**市担当者** 「ラベンダー」です。

**記者** 一人暮らし体験が「cocua」

**市担当者** 「cocua」

**記者** 「cocua」は同じいこま福祉会が借りてはるのですか？

**市担当者** そうです。

**記者** いこま福祉会が借りてはる。

**市担当者** はい、そうです。

**記者** この、いこま福祉会が常時何かに使ってはるのですか。

**市担当者** 従来までも一人暮らし体験。

**記者** いこま福祉会がやってる、一人暮らし体験で使ってはるのですね。

**市担当者** そうですね。

**記者** この、グループホームでの生活体験とか一人暮らし体験というのは、これは何のために、ということが背景にあってされてるのですか。

**市担当者** 当然のことながら、先程もありましたが、やっぱり親亡き後ということがありますよね。親御さんが子どもさんのことが心配なのです。地域でどうにかひとりで住めるようになってほしいというのが、すごく親としてあるわけです。ですので、グループホーム体験はヘルパーさんがある程度つきます。一人暮らし体験は一般の居住をイメージしています。段階的にやったりとか、そういうようなことで、自分たちが居なくなってもひとりでそこで住んでいけるというのが親御さんからご本人さんからも、すごく希望が高いことですので、それに応じてやったという形です。

**記者** このグループホームの方は、ある程度介助が必要な方で、ひとり暮らしというのは、ある程度知的障がいのある方でも自分でひとりで暮らせる。

**市担当者** 自活されてるかたもおられますし。だから、そこにまず一步踏み出そうよという施設ですね。

**記者** それぞれ、具体的にどういうことを体験されるのでしょうか？具体的なメニューとしては。

**市担当者** 例えば、夕食を作ってみようとか、洗濯をしてみようとか、ひとりで鍵をかけて夜を過ごしてみようとか、その人によって出来る事とか全然違います。ただ単に夜を過ごすというのであれば、自分の家で出来たりとかホテルで出来たりとか色々出来ると思うのですが、そういうことではなくて、実際にひとりで生活するイメージを持ってもらうために、プランを立ててその人のニーズをしっかりと聞いて達成具合を評価していく形できっちりとした体験をしていただくという、これを非常に生駒市の中ではすごく特色的な良い、普通グループホーム体験というのは、ある施設グループのすでにある施設の中で入ってみるといようなことはよくあるのですが、そういうのも当然必要だとは思いますが、より軽度な人がひとりで生活していく、出来たらグループホームというような公的なサービスを頼らずにひとりで何とかやっていくということを体験してもらってやるということです。

**記者** 専門の方の指導や支援というのを、その「ラベンダー」の中のどういった方がやっていくのか。

**市担当者** コーディネーターがいますので、やっぱり人と場所というのが絶対に必要なのでコーディネーターがプランをしっかり立ててやっていきます。

**市担当者** それも含めた拠点なのです。

**記者** コーディネーターというのは何か資格の名前ではないですよね？

**市担当者** ないです。

**記者** どういった方がこのコーディネーターをされるのですか？

**市担当者** 主に考えてるのは介護福祉士さんであったりとか、ヘルパーさんであったりとか、相談支援専門員さんであったりとか、障がい者福祉に精通している専門的な方ということです。

**記者** そういう方がコーディネーターとなって支援していくと。

**市担当者** そうですね。

**記者** 一人暮らし体験も市内在住が対象でいいですか。

**市担当者** 基本的には。

**記者** 市内在住ですね。

**市担当者** はい。

**記者** 緊急時受け入れは、知的障がい者に限らないのですか。

**市担当者** 限らないです。

**記者** 身体も含めた障がい者。

**市担当者** はい。これは、そういうようなことで緊急性があるものについてはダメですよとはなかなか言えないので、基本的には別のスキームになるのですが、その方のお世話に精通した、例えば精神なら精神、身体なら身体というような方のヘルパーさんを別途つけることを今考えております。基本的には3障がい全てというような形になってます。

**記者** 3障がいって何ですか。

**市担当者** 身体・知的・精神です。

**記者** 知的と精神は違うのですね。

**市担当者** 状況に応じてです。障がい特性が非常に強い方に関しては、そうしないと安全性が確保できないというのがありますので、そういう場合はそうしていくということです。

**記者** 一人暮らし体験ではコーディネーターの方はどういうふうに関わっていくのですか。例えば、夜中にひとりで居る時に障がいの持っている人がパニックを起こしたりした場合とか、そういう時はちゃんとコーディネーターと連絡取れたり、そういうふうになってるのですか。

**市担当者** 一人暮らし体験でも、いろいろな方が居るように、その人の課題というのが本当に違いますので、場合によっては宿泊の時に横で居る場合もあります。いける人は携帯電話を常時置いてありますので携帯電話で連絡が取れるような体制もとってるという形にしています。基本的にこれを使われる方というのは、今後ひとりで生活していくことを目指している人なので、あまり重度の人というような想定は元々はしていません。

**記者** 他に3つ機能があるということですけども、残りの3つというところはどこをやっているのですか。

**市担当者** 出来ましたら、今のところこの5つの機能を一般的には言われてるわけなのですが、基本的に自治体の判断でとりあえず出来るところから始めようと。これは拠点の実施の仕方として生駒スタイルなのかなとは思ってるのですが、「相談」という機能、これも緊急性が高いと言いますか予後がありますのでやはり30年度には実施したいと思っております。その他の残りの「専門的人材の確保」とか「地域の体制作り」につきましても引き続き順次取り組んでまいりたいと思っております。

**市担当者** あくまでもですが「ラベンダー」だけで全て完結するというわけではありません。身体とか精神とか色々な対象の方にも対応できるような、そのニーズによって対応できるような整備というのをやっていくので、全てこの5つの機能をラベンダーで完結ということではないので、その辺だけよろしくをお願いします。

## 2. その他

### 【いきいきクーポン券】

**記者** 生きいきクーポンの先日の質問の件ですけども、調査結果は。

**市長** いえ、まだ。調査結果で何かここで発表できるようなものは私も何もまだ聞いてません。

**記者** 報告は。

**市長** まだ報告を受けてないです。調査の結果も。

## 〔副業〕

**記者** 働き方改革の件で副業の推進ということをやられていますけども、どんな感じなのでしょうかと  
いうところと、また来年度に向けてどうされていくのでしょうかというところを教えてくださいませ  
すでしょうか。

**市長** 副業のところは、副業というネーミングがいいのかどうかという、簡単なので副業と言っ  
てるのですが、前も言いましたけど基本的には「地域の活動を色々やってくださいね」という中で報酬  
をいただくのが合理的なものはお金をもらってもいいですよという意味なのですが、長いので副業  
促進と言ってます。実際に今「こういうような形の事をやっててお金もらいます」というような届  
出が4件あるので、基本的には、そのスポーツのコーチであるとかNPOで命の大切さみたいなこと  
を子どもたちに教えるような活動をしている中での報酬とか、大きくその2件です。NPO活動とス  
ポーツのコーチというようにところで合計4件出てきています。なので、それで2月13日の14時か  
ら地域に飛び出してこんな活動してますよというような職員とか、その副業をやっているような人  
の中からも何名か来てもらって、こういう活動してますよという話を職員対象にやってもらって。

**記者** 報告会みたいな。

**市長** はい。お金もらってないけど地域活動してますよというような消防団とか、色々な事も含め  
ればたくさん居るのですが、若い人なんかでこれからどういうことやったらいいのかなという人を対  
象に、そういう話を聞いてまた自分も出来るかなとか、こんな事やってみたいなという機会になれば  
いいかなというので、名前は副業と言わないようにしようかという話をしてるのですが。「地域に飛び  
出す職員を応援する何とか報告会」みたいな、それも長いですけど、そんなイメージで2月13日の14  
時から4階の大会議で報告会を実施する予定なので、それは、もちろんご取材していただいてかま  
いませので、是非来ていただくと我々も大変ありがたいなど。だいぶ頑張ってる職員もそれで、ま  
た頑張ろうというふうになると思いますので、何卒よろしくお願ひします。

**記者** 来年度は。

**市長** 来年度、そういうふうな活動で、どんどん地域に出て行ってもらうような職員増やしてい  
きたいというのはあります。あと、実際に民間企業の働き方改革とかでロート製薬とかサイボウズと  
か経団連、厚生労働省の動きが出てきてますけど、実際に各自治体の首長さんの集まりで10人・20人  
ぐらいの集まりでしたけど、この副業ということはどうしていこうかという議論なんかも生駒市の事  
例を元に議論したりとか。そのパブリックの公務員の世界でも、いわゆる副業とか地域に飛び出して  
いくような中で報酬をいただくようなこととかというのを、どうあるべきかという議論はもっと広げ  
ていけたらいいかなあというふうに私としては思ってます。

(了)